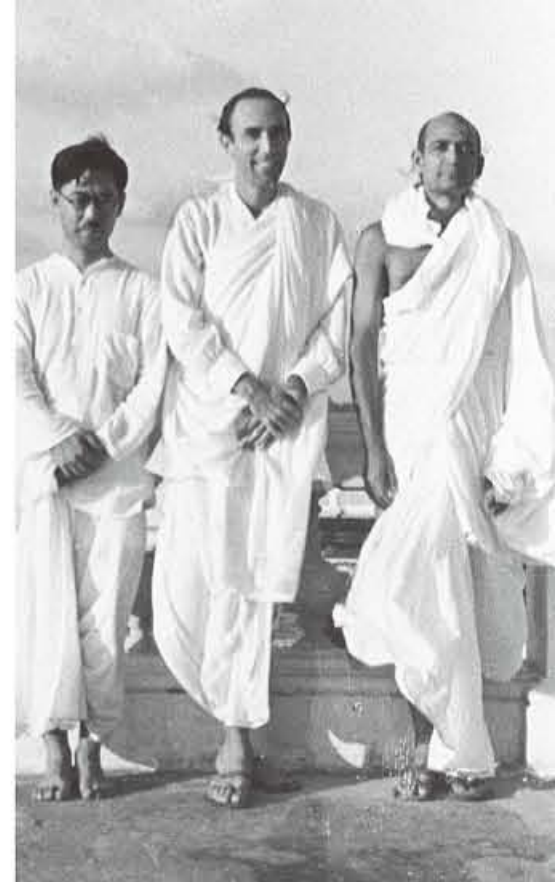


モ

第5回
アントニン・レーモンドのインド
レーモンド、G. ナカシマ、F. サンマーによる
国境を越えたネットワーク
ブドゥチェリーのゴルコンデ宿舎の建築をめぐって



講演者
ヘレナ・チャプコヴァー（早稲田大学）

日時 2015年12月7日（月）18:30～20:30

会場 日本大学理工学部駿河台校舎5号館5階スライド室1

※研究会後、懇親会を予定しています。

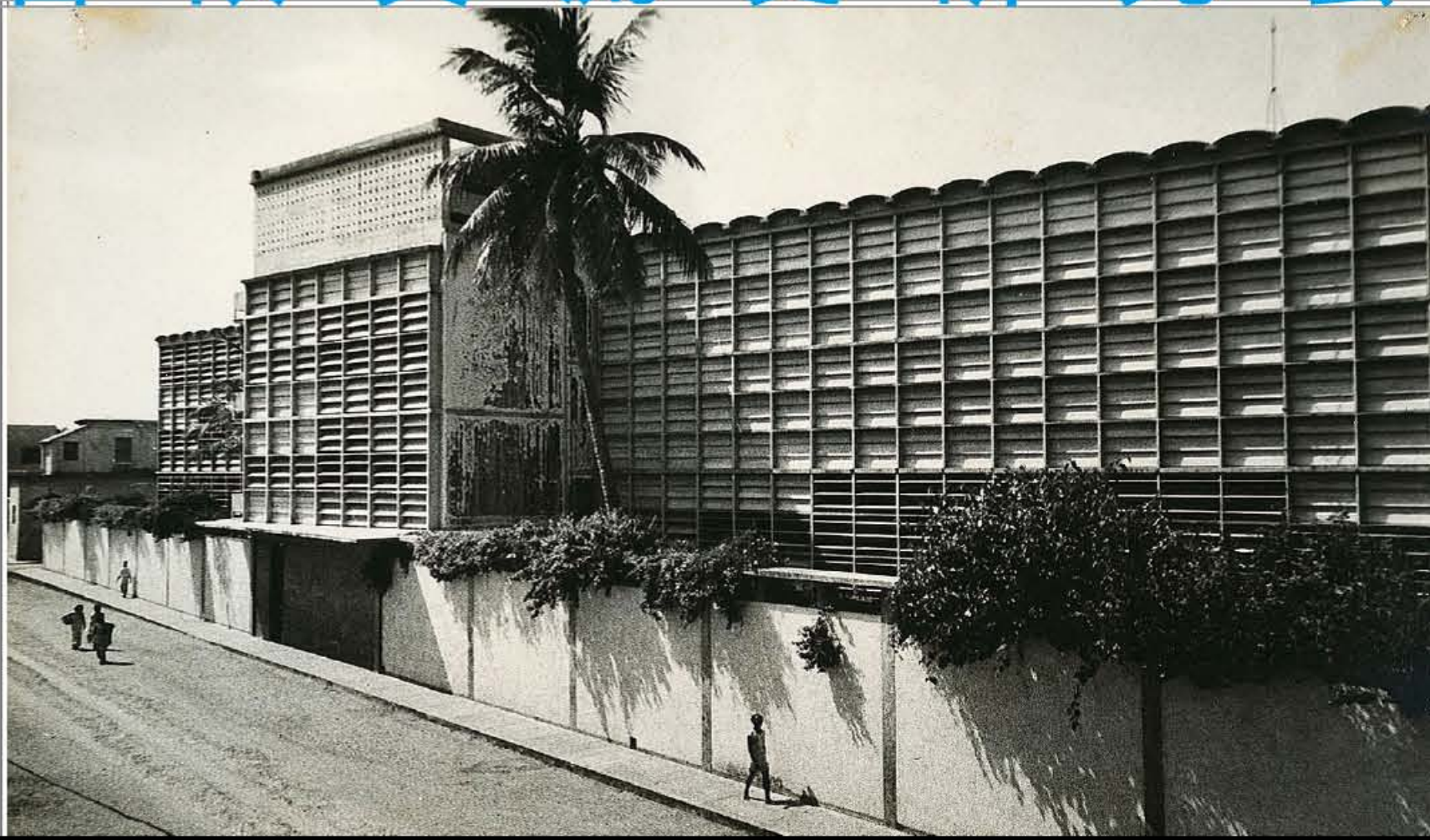
20世紀前半に、芸術的モダニズムの展望を通して、国籍を超えた関係やネットワークが伝統から抜け出し、新たなルートをどのようにして構築していったのか、というテーマをめぐってお話したいと思います。1935年、アントニン・レーモンド事務所はインド・ブドゥチェリーにあるアーシュラム・ゴルコンデ宿舎の設計依頼を受託しました。そして、日本人建築家であるジョージ・ナカシマ（スングラーナダ）が事前に現場視察を行い、1936年に基本設計を完成させています。さらに、このプロジェクトの主要なスタッフのひとりには、日本のレーモンド事務所に来るまでロシアのコルビュジエの下で働いていた、チェコ人建築家フランティšek・サンマー（František Sammer 1907-73）がいました。彼らによるトランスナショナル・ネットワークには、じつはミラ・リチャード（1878-1973）が関与しています。アーシュラムの指導者スリ・オーロピンドの霊的協力者であった彼女は、後に「偉大なる母（The Mother）」となり、ブドゥチェリーにあるアーシュラム・コミュニティのリーダーとなった人物です。ゴルコンデ宿舎の設計はこの「偉大なる母（The Mother）」の、日本とフランスにおける人脈が背景をなしていました。アーシュラム・ゴルコンデ宿舎は近年、インドのモダニズムを代表する貴重な建築作品として、海外の建築専門家達によって知られるようになりました。

ダ

07 Dec. 2015

モダニズムにおける
日欧交流史研究会

研



問い合わせ先…
日本大学理工学部建築学科建築史・建築論研究室
田所辰之助 tadokoro@arch.cst.nihon-u.ac.jp
モデレーター…田所辰之助・川嶋勝